

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 601

| | | | | | |
|------|--------|-----|------------------------|------|-------|
| 所管部局 | 教育委員会 | 所管課 | 学校教育課 | 担当者名 | 野中 良子 |
| 事業名 | 通学対策事業 | | | 事業分類 | ソフト事業 |
| 細事業名 | 通学対策事業 | | | 政策体系 | 124 |
| 会計 | 一般会計 | 科目 | 10. 教育 - 1. 教育 - 2. 事務 | | |

1. 事業の概要

遠距離通学のため、バス・JR電車等を利用する児童生徒の定期券代について、一定額を超えた分を補助する。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

遠距離通学者の保護者に対する経費の負担軽減

② 事業を実施する必要性

遠距離通学者の保護者にかかる負担軽減及び通学路の安全を確保するために必要である。

3. 事業費の推移

| | | 単位 | 平18決算 | 平19決算 | 平20決算 | 平21決算 | 平22予算 | 平23計画 | 平24計画 |
|-------------------------|----------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 決算額または計画額 | | 千円 | 11,769 | 10,713 | 11,238 | 12,956 | 13,394 | 13,665 | 13,365 |
| うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等 | | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | 使用料・手数料等 | 千円 | 4,257 | 4,323 | 1,965 | 3,888 | 2,069 | 2,000 | 2,000 |
| | 国・府支出金 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 千円 | 7,512 | 6,390 | 9,273 | 9,068 | 11,325 | 11,665 | 11,365 |
| 職員等の従事人員 | | 人/年 | — | — | 0.20 | 0.35 | | | |
| 人件費 | | 千円 | — | — | 914 | 1,866 | | | |
| 事業費総額 | | 千円 | — | — | 12,152 | 14,822 | | | |

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

| | |
|-------------------|-------------|
| ・丹波養護学校児童下校時送迎委託料 | 251,856円 |
| ・JR定期券代 | 1,947,000円 |
| ・京阪京都交通バス代 | 10,576,880円 |
| ・自転車（6キロ以上）通学者補助金 | 180,000円 |

5. 事業結果の概要

児童生徒の通学支援が図れた。

6. 活動の詳細

| 活 動 内 容 | 活動日又は時期 | 活 動 結 果 等 |
|---|--------------|-----------------------------|
| (1) | | |
| 路線バス、JR電車を利用して通学する児童生徒の保護者から「南丹市義務教育学校通学費補助金申請書」を学校通じて提出してもらう。京阪京都交通利用者48名、JR利用者67名 | 4月 | 交付決定通知書は出さず、バス会社等に定期券代を支払う。 |
| 殿田中学校定期券代をJR日吉駅に支払う | 6月、9月、12月、3月 | |
| 園部中学校、八木中学校、西本梅小学校の通学バス定期券代を京阪京都交通（株）に支払う。 | 4月、8月、9月、1月 | |
| 丹波養護学校通学児童（美山1人）の下校時送迎委託について南丹市社会福祉協議会と4月委託契約し、毎月委託料を支払う。 | 4月～3月 | 児童の保護者負担軽減。 |

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

スクールバスの走っていない遠距離通学者については、民間のバス及び電車を通学手段としており、保護者負担の軽減及び通学路の安全確保は引き続き必要である。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

③反省点、今後の展開・方向性等
 スクールバスの走っていない遠距離通学者については、民間のバス及び電車を通学手段としており、保護者負担の軽減及び通学路の安全確保は引き続き必要である。